

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷二第

論說

●在外正貨處分ニ就テ

法學博士 小川郷太郎

●穀物定期取引論

助教授 河田 嗣郎

●戦後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ト日本移民問題(三卷)

講 師 米田庄太郎

研究

●職工ノ災害扶助制度(工場法第十五條ノ施行)

法學博士 戸田 海市

●家中工業ニ就テ

同志社大 瀧本 誠一
學 教 授

●本邦出生率増加ノ原因(三卷)

講 師 高田 保馬

雜錄

●經濟雜話(二)

法學博士 田 島 錦 治

●南北米經濟關係ト日支經濟關係戰後經濟問題

法學博士 神 戶 正 雄

●歐洲戰爭ト其主要ナル社會學的因素

講 師 米 田 庄 太 郎

●職工扶助令ニ就テ

助 教 授 山 本 美 越 乃

●英國ノ食料品ト物價

助 教 授 河 田 嗣 郎

●獨逸ノ市統計所小觀

講 師 財 部 靜 治

●まゐるさす生誕百五十年記念會記事

講 師 本 庄 榮 治 郎

家中工業ニ就テ

同志社大學教授 瀧 本 誠 一

私ガ此ニ家中工業ト云フハ、今日所謂家内工業又ハ小工業ノ事ニアラズ、徳川時代ニハ諸藩ノ侍達^{サマライ}ヲ家中ト稱シ、何藩ノ家中、某侯ノ御家中ナド唱ヘタルユヘ、直ニ其語ヲ取テ家中工業トシタノデアル、即チ藩主カ主動トナリ、其ノ家臣ニ授ケタル工業デアル、徳川時代ニテハ之ヲ稱シテ家中内職ト云ツタモノデアル。

家中工業ノ起原ヲオ話スルニ付、先ツ最初ニ申サネバナラヌコトハ、其ノ工業ノ目的デアル、目的ニ依テ之ヲ區別シマスルト、左ノ三種ノモノガアル。

- 一、國產獎勵ノ主意ニ出ツルモノ。
- 二、藩主ノ物好ニ出ツルモノ。
- 三、諸士救濟ノ主意ニ出ツルモノ。

但斯ク區別スルモ、此ノ區別ハ勿論ハツキト分レタルモノニアラズ、國產獎勵ノ主意ニ出テタルモノガ、後ニハ段々盛ンニナリテ、諸士救濟ノ目的ニ適フコトアリ、又藩主ノ物好ニ出デタル事業ガ、追々盛大ニナツテ、後ニハ其ノ國ノ特産物トナツタコトモ鮮ナカラズ、又諸士ノ救濟ヲ目的トシテ始メタコトガ、其ノ國ノ重要産物トナリタル事アリ、此ノ最後ノモノガ、即チ

今此ニ私ガ主トシテ述ベントスル問題デアル。

國產獎勵ノ主意ニ出デタルモノハ、其ノ起原最モ古ク、例ヘバ蒲生氏卿ガ漆器ヲ獎勵シ、黒田長政カ博多織ヲ再興シ、天文年間ニ濠傷シテ其後中絶シタリ水戸光圀ガ抄紙、製茶ヲ獎勵シ、海苔及白魚ノ繁殖ヲ計リ、又野中兼山ガ土佐侯ヲシテ、種々ノ産業ヲ興サシメタルノ類デアル、總テ是等ノ事業ハ、志アル諸藩主ガ皆競ツテ獎勵シテ居ツタモノデアルガ、是等ノ多クハ、私ガ此ニ述フル家中工業ニハ適當ニアテハマラナイモノデアル。

藩主ノ物好ニ出デタルモノハ、多クハ奢侈品ニ類スルモノデアツテ、其ノ重モナルモノハ、茶ノ湯用ニ供シタル陶器デアル、陶器ハ古來ヨリ多ク製造シツツアツタモノナレドモ、大名ガ之ニ從事スルニ至ツタノハ、文祿朝鮮ノ役ニ、島津毛利島津義弘毛利輝元二氏ガ朝鮮ノ陶工數人ヲ伴レ來ツテ、各其ノ領内ニ製陶業ヲ興シ、長州ニテ萩焼、鹿兒島ニテ薩摩焼ヲ始メタノデアルガ、此レハ實ニ義弘輝元二氏ノ物好ニ出テタルカ、又ハ初メヨリ大ニ國產トシテ斯業ヲ盛ナラシムル目的デアツタカ、其邊ハ分ラナイノデアル。

然レトモ其後徳川氏ノ世ノ中トナリ、太平打チ續キ、諸大名ハ段々ト遊惰ニ流レ、奢侈ニ赴キタレバ、其ノ時代ニ於テハ、往々自家ノ玩好ノ爲メニ、陶窯ヲ起シタモノガアル、例ヘバ明暦年間ニ、中村藩主相馬氏ガ、其家臣田代某ニ命ジ、野々村清兵衛ニ就テ、御室焼ヲ學バシメ、其ノ陶法ヲ得テ、所謂ル相馬焼ヲ始メタルカ如キ、又紀州侯ガ有名ナル御庭焼ヲ試ミタルガ如キハ、皆ナ藩主ノ物好ニ出デタルモノト思ハルルノデアル、而シテ紀州ノ御庭焼キハ、紀州侯及少數ノ藩

士ニ傳ヘタルノミデ、國ト云フ程ノモノニモナラズ、全クオモチヤ位ニ止マツタノデアルガ、相馬燒ハオモチヤガ本モノトナリ、其後大ニ發達シテ、中村地方ノ特産物トナツタノデアル、然レトモ家中工業トシテ多數ノ藩士等ガ、之ニ從事シタカト云フニ、左様デハナカツタラシク思ハルルノデアル。

サテ諸士救済ノ主意ニ基キ、諸藩ノ家中ニ於テ一般ニ從事セシメタル工業、即チ正當ニ所謂ル家中工業ハ、何ガ動機デ起ツタカト云ヘバ、ソレハ全ク當時ノ必要ガ然ラシメタノデアル、必要ハ工夫ノ母デアルト云フ諺ヲ、事實ニ證明シタノデアル、即チ其ノ事情ヲ略述シマスレバ、徳川氏ノ中世以降、即チ元祿以來、上一般ニ非常ノ窮迫ニ陥リ、諸藩ノ侍ハ何千石トカ、何百石トカノ知行ヲ、領シテ居ルト云ツテモ、ソレハ多クハ名義ノミデアツテ、實ハ中中其ノ呼聲ダケノ高ヲ貫ツテ居ツタモノデナク、其ノ半分モナカツタモノデアアル、太宰春臺ノ經濟錄拾遺ニ「近來諸侯、大小トナク、國用不足ニシテ、貧困スル事甚シ、家臣ノ俸祿ヲ借ル事、少キハ十分ノ一、多キハ十分ノ五六ナリ」ト云ツテ居ル、俸祿ヲ借ルトハ、俸祿ヲ渡サヌト云フコトデアツテ、十分ノ一借ルト云ヘバ、千石ノモノ九百石、百石ノモノハ、九十石デアリ、十分ノ五六ノ借ト云ヘバ千石ノモノハ、四五百石、百石ノモノハ、四五十石ノ俸祿デアアル、然ルニ春臺ノ記事ハ、享保頃ノ事デアツテ、其時ノ諸大名ハ、マダマダ比較的窮迫ノ程度ハ、甚タシキニ至ラナカツタ時分デアアル、其レヨリ段々降リテ、寛政以後ニ至アハ、天下ノ諸大名、真ニ甚タシキ窮迫ニ陥リタレバ、諸士ノ俸祿ハ、次第次第ニ減セラレ、例ヘバ雲州ノ如キハ朝日丹波ノ財政整理ガ行ハルルマデハ

百石ノ實封僅カニ三十石ニ過キナカツタ位デアツテ斯ルコトハ他ノ諸藩ニモ實例ガ少ナクナイノ
デア、故ニ寛政以後ニハ僅々少數ノ大名ノ外ハ、其ノ臣下タル諸士ニ對シテ、碌々俸祿ヲ渡ス
コトハ、出來ナカツタノデアツテ、諸士ノ慘狀ハ言語同讎デアツタノデアアル。

於此諸士救濟ノ聲ガ高ツテ來テ、太平ノ世ノ中ニ、武士ガ何ニモセズニ、無職デ居テハ、詰リ主
人モ本人モ共倒レトナルノデアアル、早ク何トカセテバナラヌト云フコトガ起ツテ來タノデアアル。
斯ル場合ニ臨ミ、其ノ救濟法トシテ、種々ノ事ヲ申出シタモノガアツタノデアアルガ、其中ニ最モ
勢力ノアツタノハ、夫ノ農兵論デアアル、農兵論トハ、古ハ兵ヲ農ニ寓スト云ツテ、兵士ハ平時事
ナキトキハ、各各農村ニ歸寓シテ、耕作ニ從事シ、有事ノ際ニ徵發ニ應シテ、大將ノ旗下ニ集ル
ノ制デアアル、此ノ農兵論ハ、支那ニ於テ昔ヨリ實行サレタモノデ、西洋ニテハ羅馬ナドニ於テ行
ハレ、又ウエーするナトニテハ、十二三世紀頃マデ、矢張實行シテ居ツタモノデアアル、徳川時代
ニ此ノ農兵論ヲ主張シタモノハ、熊澤蕃山ヲ始メ、徂徠春臺ナド、皆盛ニ之ヲ唱道シ、近クハ廣
瀬淡窓ナドモ、之ヲ主張シタルモ、昔ト今トハ、時勢人情カ異ナツテ居ルカラ、實際此ノ説ハ種
種ノ理由アツテ行ハレサルノデアアル。

サリトテ諸士ノ困窮ヲ、此儘放任シテ置ク譯ニモ行カザルヨリ、大名中ノ氣ノ利キタル者ハ、諸
士ニ授産ノ法ヲ考ヘテ、之ヲ獎勵スルコトニナツタノデアアル、是レガ所謂ル家中工業ノ始マツタ
動機デアアル。

家中工業ノ種類ハ、ドンナ物デアツタカト申シマスレバ、是レハ別ニ何何ト、限定セラレテ居ツ

タモノニアラズ、各々其ノ地方々々ニ便利ニシテ、適當シタルモノヲ撰ンダノデアツテ、其ノ品目ハ千差萬別デアツタノデアル、陶器アリ、漆器アリ、製糖アリ、製茶アリ、製糸アリ、竹細工ナドモアレバ、傘ノ製造マデ實行シ、中ニハ馬ノ鞍ナドモヤツタ事ガアル、併シ此等ノ多クノモノハ、其ノ性質上、家中工業即チ侍達ノ從事スル仕事トシテハ、甚タ不適當デアツテ、餘リ盛ニ家中ニハ、實行サレナカツタモノラシク、思ハルルノデアル、故ニ此等ノ工業ハ當時藩主及少數ノ侍ナドカ發起獎勵シタルコトアルモ、家中一般ニハ、行ハレズシテ、多クハ直ニ民間普通人民ノ、職業ニ移ツテ、仕舞ツタモノデアル、然ルニ其中家中工業トシテ、最モ適當シ、隨テ著ルシク成功シタルモノハ、製糸紡織事業デアル。

元來武骨ニシテ粗放ノ習慣アル、武家武人ニ、工業的ノ仕事ヲヤラス抔ト云フコトハ、無理ノ注文デアル、辻番ノ耄碌親爺ガ、揚枝削ノ内職位ガ、關ノ山デ、其他工業ト云フ工業ラシキ仕事ハ到底ダメデアツタノデアル、故ニ恰恠ナル大名ハ、其邊ノ事ヲ能ク承知シテ居タルヨリ、何トカシテ諸士ノ家内、娘ナド、一家擧ケテ從事シ得テ、其ノ生産物ハ、自家ニ使用セラレ、又ハ他ヘ廣ク賣捌カルルモノニ爲シタランニハ、初メヨリ面白半分ニ着手スベシトノ考ヨリ、織物ヲ工夫シタノデアツテ、是レカ一番能ク當ツタノデアル、其中ニモ取分ケ、最モ著シク成功シタノハ、甲洲ノ郡内ト、羽州ノ米澤織、博多ノ縫箔隱起(オキアゲ)等デアル、熊本侯ガ絹織ヲ、諸士ノ妻女ニ獎勵シテ、大ニ盛大ナラシメ、白河侯ガ縮緬ヲ織ラシメタルナドモ、著明ノ事實デアルガ、其ノ家中工業ガ、民間一般ニ傳播シテ、其ノ地方ノ特産物トナツタ、最モ重要ナルモノハ、上記ノ三

事業デアル、今左ニ其ノ概略ヲ述フベシ。

(第一) 甲州ノ郡内織ガ、同地方及附近ノ特産物トナリタル濫觴ニ付テハ、文化文政頃ノ經濟學者海保青陵ト云フ人ガ、其ノ著「稽古談」ノ中ニ委シク記シアレバ其ノ一節ヲ此ニ掲クレバオ分リデアラフト信ズ、其ノ文ニ曰ク

今時、士ノ内職ノ尤大ナルモノハ川越平ナリ、天下ニ統夏袴ハ川越平ナリ、一體川越平ノ起リハ今ノ川越侯ノ家中ガ始メタルニアラズ、秋元公今ノ山形侯ノ家中ノシシダシナリ、今ノ山形侯ハ川越ヨリ山形ヘウツリタルナリ、川越ヘウツラレル以前ハ、甲州ノ谷村(今ノ都留郡)ニ居タルナリ、今ハ谷村ト云町バカリ残りテ、廢城ニナリシユヘ城墟ノミアリテ人モオラズ、鶴昔甲州ニアソビシ時、谷村ニハ二月バカリモ留ラレテ書ヲ講セリ、谷村ハ富士ノ中腹ナリ、世ニ所謂ル郡内ナリ、此邊マデモ木ナド多クハユヌナリ、田畠モ多クハナク、ハダ山ニテハナクレドモ、原ノ様ナル所處々ニアリ、扱テ其ノ空地ナル谷村ノ南北ノウラ悉ク桑ナリ、寒地カ桑ニ宜キユヘオビダダシキ桑原ナリ、扱荒屋小治、谷村トダシニ、富士ノ山チ下ル稜行キテ、ヒクキ處ナ、谷村ト云、ケ様ニ桑ノ多キユエニ三ヶ村トモ盛ニ養蠶スルナリ、扱富士ニ無間ノ谷ト云谷アリ、大谷ナリ、此水四方ヘウカレ流レテ人ヲ活スナリ、其流レノ内一流ハ路ノ真中ヲ流ルルナリ、雪ノ水ユヘ此上モ無ク潔ナリ、此水ニテ蠶ヲ烹ル、凡水ハコノ水計リナリ、故ニ郡内ノ絹ハ、光リアリテ地合、他國ノ絹トハ大キニ違フナリ、秋元公谷村ニ居城ノ時ニ家中ノ内職ニ夏袴ヲ織リタルガ郡内平ナリ、其後川越ヘ移ラレテ、家中内職ニ又夏袴ヲ織ル、コレ川越平ナリ、今山形ヘウツラレ、家中又袴地ヲ織ル、コレ仙臺平ナリ、是カ家中内職ノ冠タルヘシ、谷村ノ時モ川越ノ時モ山形ニテモ、家中ノ内職、在町ニ移リテ、今ハ三ヶ處トモニ、其ノ土地ノ産物トナレリ、鶴又川越ニ遊ヒテ見ルニ夏袴ノミナラズ、種々ノ織物デキ今ハ甚ダ結構ナルモノヲ織リ出ス、川越ヨリ北、既橋、館林、桐生皆赤城山ノ裾ニテ、桑ノヨフ出來ル處ユヘニ、川越ト同シク蠶ヲバスル人多シ、北邊ヨリ澤山ニ蠶ノワタナウリニ來ル處也、川越平ノ大雙ニナリタルハ、秋元公ハ七万石ニテ、今ノ川越公ハ十五萬石ナルユヘナリ、サレバ家中ノ人ノ多少ニヨリテ産物ニ多少アルコトヲ知ルベシ、家中ノ内職ヲサスコトヲ耻ル家アレドモ是ハ愚ナルコトナリ云云

右ハ郡内平、川越平、及仙臺平ノ由來ノ大略デアルガ、米澤絲織モ、亦之ト同シク、國侯ノ保護

ノ下ニ家中工業トシテ發達シタルモノデアル。

(第二)米澤織ニ付キテハ左ノ記事ヲ見ラルベシ。

安永ノ初、新ニ御國産役場ヲ開キ、上方ヨリ職工數人ヲ召下シ、御家中小祿ノ妻子ニ、始メテ絲織類ノ女工ヲ教ヘサセ玉フ、追々此業盛ニ興リ、諸士生計ノ助チ爲シケレバ、益々之ヲ勸メ玉ハンカ爲メニ、治廣御代ニ至テ、前前屋形様始メ、御方方様、御着用ノ絹物ハ、京都御服所ヘ注文ヲ以テ、御買上クナリシテ、爾後御勤御着用ノ御上下羽二重等ヲ始メ、都テ御國産ノ品ニ限ルベシト仰出サル、其品、初ハ見苦シケレドモ、推シテ御用ヒナサレシカバ、人々彌々勵ミテ、追々上手ニナリ、且京都ヨリ久六、俵次ナト云フ、織物ノ妙工、來テ指南シケル故、綾織浮織ノ類、妙手極メ、又手ヲ拔ナ殿シテ禁セラルルチ以テ、堅實精良ナルコト、類ナケレバ、江戸、京ヲ始メ、諸國ヘ流布シ、米澤絲織トテ絶品トセリ、斯クナリシカバ、御家中妻子ノ手仕事、常ニ暇ナク、生計ノ第一トナリ、之カ爲メ小知小祿ニテモ、御奉公ヲ易ラカニ勵ムニ至レリ云云

右ハ前田正名氏ガ農商務省ニ在職中ニ編纂シタル「興業意見」中ノ記事ナルガ、之ニ依テ米澤織ガ當初藩士ノ困窮ヲ救濟セントノ目的、即チ家中工業ヨリ段段發達シタルモノナルコトハ明白デア
ル。

(第三)博多ノ縫箔隱起ニ關シテハ「大日本産半蹟」(大林雄也氏編纂)ニ左ノ記事アリ、以テ概略ヲ知ルニ足ラン。

筑前國ニ於テ、縫箔及置揚業ノ起原ヲ記サンニ、以前ハ繭ハ縫箔屋ト稱スルモノ業ナリ、隱起(オキアゲ)ハ藩主ノ後房、又ハ臣下ノ婦女ノ製スルモノニシテ、世間ニテ御細工ト云ヒ稱セシト聞ヘシモ、今ヨリ之ヲ見レバ、甚ダ粗製ナリ、文化文政ニ至リテ、博多ニ村田千賀ト云フ女アリテ、夙ニ繭織ヲ好シ、思慮ヲ凝シテ、發明自得シ、其ノ夫村田佐一郎畫ヲ善クス、相談リテ畫法ノ布置若色ニ依リ、繭隱起ヲ成セシ故ニ、當ニ巧密ナルノミナラズ、俗態ナクシテ、雅玩ニ供スベキニヨリ、大ニ聲ヲ得テ從學婦女ノ數モ亦多ク、教モ亦懇篤ナリシナリテ、巧手多ク疊出セリ、今日ハ専ラ之ヲ指南スル婦人アリ、中産以上ノ女子ハ、習字ト同シク學フコトトナレリ、方今博多ニ繭隱起類ヲ精巧ニ製出シテ、一ノ産業トスル婦人多シ、其上品ナルハ帛紗及襟類ヲ織ヒ、隱起ハ三月離祭ノ人形又ハ掛額ノ類ヲ製ス、其細工巧ミニシテ、九州地方ニ其類稀レナリ云云

以上ノ事實ハ重立タモノナレドモ、徳川氏ノ中世以後、斯ノ如キ家中工業ハ、何レノ藩ニテモ行ハレタモノデアツテ、其ノ餘風遺俗ガ、知ラズ識ラズ民間、傳ハリテ、其ノ地方ノ重要産物トナツタモノハ、鮮クナイト思ハル、夫ノ白河侯即チ松平樂翁ガ、天明八年ニ領内ヘ織屋役所ナルモノヲ設ケ、小祿ノ家人ノ妻女ヲシテ、或ハ織屋ニ出テ、或ハ家ヘ原料ヲ持歸リテ、絲ヲ繰リ、絹縮緬ナドヲ織ランメ、其ノ賃錢ヲ以テ、親ヤ其ノ俸祿ノ、不足ヲ補ハシメタルガ如キハ、勿論新ニ一工業ヲ興シタコトニハアラサルモ、之ニ依テ間接ニ、大ニ民間ノ織物業ヲ奨勵シタルコトハ、確カデアルト信ズルノデアアル、其他製絲ナドハ殆ント各藩ノ家中ニ於テ、行ハレツツアツタモノデアアル、私ハ此事ニ付キテハマダ充分ノ材料ヲ調べ居ラサルモ、兎ニ角其ノ實例ハ、鮮クナイト信スルノデアアル。

然ルニ此ニ注意スベキコトハ、家中婦女子ノ工業トシテ、絹織物ナドガ、斯ノ如ク盛ナリシニ拘ハラズ、木綿及麻織物類ハ餘リ家中工業トシテ行ハレナカツタ様デアアル（農家ニテ木綿糸ヲ紡イダリ、木綿ヲ織タリスルコトハ、一般ニ行ハレタコトデアアルノミナラズ小祿ノ士ナドカ往々内職ニヤツタコトモアル）此事ハ一ツノ不思議デアアル、殊ニ享保以來、徳川政府ハ屢々奢侈禁止令ヲ下シ、諸藩ニ於テモ年々歳々、殆ンドウルサキ迄ニ奢侈ヲ禁止シ、其之ヲ下ス毎ニ、必ズ絹布ヲ衣ル可ラズト云フコトハ、筆頭ニ掲ゲルニ拘ハラズ、木綿麻ヲ措テ、絹織物ヲ奨勵スルノ傾アリタルハ、頗フル奇怪ノ様ナレドモ、ソレニハ大ニ理由ノアツタ事デ、其理由ハ龜井道載ノ「肥後物語」ニアル、「肥後物語」ハ例ノ有名ナル堀平太左衛門ノ改革ニ依リ、肥後ノ政事ガ能ク行届タル

願末ヲ記シタモノデアルガ、其中家中大夫以下ノ士ノ奥方ガ、養蠶紡織ニ熱心ナルコトヲ録シタル條ニ、或人ガ「家中ノ奥方ガ木綿ニテモ織ルト云フナレバ、聞ユレドモ、其レサヘモセヌ事ナレバ、蠶織ハ思寄ラズ」ト嘲リタルニ答ヘテ、

是ハ人情ニ通セヌ申分ナリ……人情ニ通セヌ申分トハ、當時大家ノ奥方ハ、幼少ノ時ヨリ榮耀ニフケリ、嫁シタル後モ尙又慰ミノミナ、今日ノ仕事ト致シタル身持ナレバ、世帯ノ爲メニナルユヘ、女工ヲスルト云了箇ハ、決シテ無キ筈ナリ、且木綿チイカホド織出シタリトモ、小者ノ着物カ、下女ノ帶カニナル位ノコトニテ、何程仕事シテモ、目ニ立ツ様ノ事ハ出來ヌコトナレバ、木綿ハ心進ミテ織レヌ筈ナリ、蠶織ハ左様ノ道理ニテハナリ、少々心ナ用ヒ、念サヘ入レバ、其年ヨリ嫡子ノ帶位ハ出來ルコトニテ、少シ上手ニナレバ、上下地、羽織地モデキ、遂ニハ今度禮那殿ノ江戸下リノ待設ニ然ルベキ品、オリタシナド思フハ、婦人ノ情ニ必スアルコトナリ、夫ヨリシテ主人モ悦ヒ、脇カラモ吹聴スルガ力ニナリ、年々蠶モ餘分ニ飼ヒ、小兒ノ衣物ナドハ、調ヘズトモ濟ムヤウニナリ、成人ノ娘ナドアレバ、手織ノ帶地、下着ナドモ、ソロソロ用意スルヤウニナルコトニテ、覺ヘズ世帯ノ爲メニ相成ルコトナリ、ケ様ノ譯ナルユヘ、木綿ハ織ラズトモ、蠶織ハ仕掛次第ニテ、随分イタスモノナリ云云

此ノ理由ニテ家中工業トシテハ、木綿ハ不適當デアツテ、絹織物ノ方ノミガ、専ラ多ク行ハレタモノデアルト思ハルルノデアル、又此ノ事實、即チ當時行ハレタ家中工業ノ重ナルモノガ、絹織物デアルト云フ事實ガ、幕府及諸藩ニテ屢々發布シタ、奢侈禁止令ノ行ハレナカツタ、一ツノ原因デアル。(禁止令ノ實行サレナカツタノハ令其物ノ性質上行ハレ難キモノデアル上ニ徳川政府ハ諸大名ヲ奢ラシテ貧困ニ苦マシムルカ其ノ創業以來ノ政策デアツタノデアアル)

家中工業ハ斯クノ如クシテ、諸藩ノ中ニ盛ニ行ハレタノデアアルガ、之ト同時ニ、大名ノ中ニ、所謂「産物廻ハシ」ナル事が始マリタル爲メ、家中工業ハ非常ノ便利ヲ得テ、益々發達シタモノデアル。

産物廻ハシナル事ハ、何シナコトカト申シマス、是レハ諸大名ガ、自國ノ産物ヲ、藩政府ノ役人ノ手ニ集メテ、京、大阪へ輸出スルノデアツテ、京都ナレバ、若州ノ小濱侯ガ鰹魚等ノ國産ヲ三條ノ藩邸内へ輸送シ、彦根侯ハ緋ナドヲ、丸太町ノ屋敷へ集メ、園部侯ガ多葉粉、其他ノ國産ヲ京都ノ自邸へ輸出シ、各々其倉庫へ納レ置キ、夫レノ問屋ヲ呼寄セテ賣捌キタルモノデアアル又大阪ノ方ハ中々ノ大仕掛デアツテ、中國、九州、四國等ノ大諸侯ノ國産、例へバ長州ノ蠟、及紙、藝州ノ紙、豊後ノ多葉粉、土州ノ紙ナド、皆大荷物大名ノ送ル荷物ヲ云フト稱シテ、大阪へ輸出シ、或ハ自邸ノ倉庫へ納メ、或ハ一干委託ノ商人ヲ定メテ、之ニ送付ケタノデアアル、其狀況ハ、宛モ蘇格蘭王ガ、羊毛及鞣皮ヲ船ニ積ンテ、かんつりへ賣捌ニヤリ、又葡萄牙王ガ、あんどろえるぶ、へ手代ヲ置テ、西印度ノ香料ナドヲ賣ラシタト同ジコトデアアル、之ヲ稱シテ産物廻ハシト云ツタノデアアル、以前ハ諸國ノ産物ハ、其地方へ仕込ミニ廻リツツアル仲買人ニ、安ク買倒サルルカ、否ラサレバ、生産者自ラ京大阪へ積出シタノデアアル、之ヲ「納屋物」ト稱シテ、銘々取引ノアル問屋ニ托シテ、倉預ケトナシ、夫レノ商人ニ頼ンデ、買ツテ賣ツタノデアアル、故ニ生産者ハ種々ノ費用ヲ要スルノミナラズ、商人ニハ足元ヲ見ラレテ、品物ヲ蹴ラルルノデアツテ、甘味ハ悉ク商人ニトラレタノデアアル、然ルニ諸藩ニ於テ所謂ル官營ノ産物廻ハシヲ始メテヨリ、諸國ノ生産者ハ、京大阪ノ奸商ニ、膏ヲ絞ラル、ノ憂ヘナク、大ニ生産スレバ生産スルダケノ利益アルヨリ、皆競ツテ職業ヲ勵ムコトニナツタノデアアル、之ト同時ニ諸藩ノ政府デハ、生産者ノ望ニ任セ、其ノ生産物ハ直ニ現金ニテ買上ケ呉ルル事ニシタルヲ以テ、貧乏士族ノ家中工業ハ、大

ニ獎勵セラレ、國內商人ナドノ先立チトナツテ相應ニ榮ヘタモノデアル、殊ニ武士ハ前ニ申シタ通り武骨一邊デアツテ、計算ニハ至極疎カツタト云フモノノ、他ノ庶民ニ比スレバ、勿論教育アリ、知識アリ、種々ノ研究心ニ富ミ居タルコトナレバ、商工ノ先キニ立テ、何ニカト工夫スルコトハ、出來タモノデアル、例ヘバ野州黒羽藩主大關土佐守カ、文政年間ニ蘭學ヲ修メテ、羅紗織ノ法ヲ工夫シ、機織彙編ト稱スル著述ヲナシタルガ如キモ、其ノ一例デアル、故ニ家中工業ハ、徳川ノ末年ニ至リテハ、唯々ホンノ内職位ニ止マラズ、經濟史上、可ナリ重要ノ地位ヲ占ムルニ至ツタモノト思ハルルノデアル。

然レトモ又當時家中工業ニ反對スル者モアツタノデアル、其反對者中ニハ、二種類アツテ、一ハ單ニ町人大名ナドト嘲リテ、武士ハ商業ナドヲ營ム者ニアラズト云ツテ、反對シタノデアル、又他ノ一ツハ經濟政策上、宜シカラズトシテ、反對シタノデアル、前者ハ固ヨリ取ルニ足ラザル説ナレドモ、後者ハ一理由アツタノデアル、例ヘバ其ノ反對者ノ一人ナル、正司考祺ハ經濟問答祕祿ニ左ノ如クニ云ツテ居ル。

武家モ至極ノ閑暇ユヘカ、自ラ職ヲ廢シテ男界ノ商業ヲ營ムハ、國家混亂ノ本ナリ、先年或領分(自國ヲ指スナルベシ)ニ産物仕入ト云官署ヲ建テ、恰例ノ者、段々累進シ、互ニ利ヲ興シ、先ツ領中婦女ノ摘綿ヲ貸シテ、紡織サセ、其本綿ヲ官ニ收メテ、大阪ニ販キ、歸路ニハ畿内廣島作州等ノ綿ヲ求メテ、又婦女ニ貸シ、或ハ蠶麥ヲ貸シ、或ハ質屋ヲ建テ利息ヲ取り、貸殖ヲ第一トセリ、故ニ諸商ハ職ヲ奪ハレ、大ニ困苦シ、後ニハ領民高利ヲ貸ル様ニ移リ行キ、民間必至ト迫リテ、甚々怨メリ云々

大名ノ商業、家中工業モ餘リ圖ニ乗ツテ、無暗ニヤリ過ギルト、或ハコンナ弊害ヲ生スルコトガ、無イトモ限ラナイノデアル、然レトモ封建制度ノ餘勢トシテ、非常ニ商工者ヲ壓迫シ、手モ足モ

出サレヌ程ニ束縛シ、彼等ヲシテ極端ニ萎縮セシメタル場合ニ於テハ、藩主自ラガ率先シテ、新事業ニ着手シ、其ノ家中、擧ゲテ之ニ從事スルト云フハ、其ノ地方ノ經濟界ニ取ツテハ、莫大ノ活動力ヲ與フルモノデアル、殊ニ諸國ノ城下ニアル庶民ハ、多クハ貧窮者デアツテ、資本ナドヲ授シテ、大仕掛ノ仕事ヲ經營スル者ナドハ、殆ント之レナク、先ツ何程カノ資本ヲ授シテ、一仕事ヲ試ミテ見ンカト思立ツルガ如キモノハ、兎ニ角窮シテ居ツテモ、大名ノ外ニハ、無カツタノデアル、大名ナレバ思付キサヘスレバ、金ガナクトモ強制的ニ賦役金ナドヲ取上ケテ、實行シタモノデアル、例ヘバ加賀大聖寺藩ニテ、前田利明ガ家老ノ神谷某ヲ、山城へ遣ハジ、茶實ヲ買入レ、茶師ヲ聘シテ、盛ニ製茶業ヲ獎勵シタル時ニハ、其ノ費用ノ一部分ハ、江沼郡全體ニ賦課シタノデアル、故ニ家中工業ハ商人等ヨリハ、多少ノ苦情ハアルベク、又ハ頑冥ナル武士氣質ノ人ニハ、勿論反對アリシナルベキモ、一般國家ノ爲メ、勿論必要ノコトデアツタト思ハルルノデアル、唯其ノ從事スベキ工業ノ種類ヲ撰擇スルノガ、問題デアツタノデ、秋元侯、及米澤侯ナドノ行ツタ事ハ、至極其當ヲ得タルモノト信スルノデアル。

(右ハ本年一月二十一日經濟學讀書會例會席上ニ於ケル講演也)